

八石山山行記録



頂上まで 500m



山頂小屋「やまぼうし」

目的地	八石山 (南条)	期 日	平成 18 年 2 月 5 日 (日)
山行人	笠原正雄単独	特 記	いよいよシーズン到来。

地 点 名	(着) ~ (発)	天候	記 事
与 板	午前 9:30 発	雪	三島のコンビニで弁当を調達。R 8、曾地経由。鯖石川を渡る頃から雪が強くなる。目指す山の様子は全く見えない。
路上駐車地点	11:00 発	曇り	北条駅手前で跨線橋を越えて進むものの、しばらく道迷いする。路側駐車地点に先行隊 3 人が出発するところであった。彼らの後を追い歩き始める。風も感じられず、ベスト着用でカッパは不要である。新雪の下のざら目雪層が、時々ヌガル。途中林道横断手前で先行隊を追越す。
尾根に取り付く		〃	勘違いから、左折してしまい、尾根にかき上がり、スノーシューを装着して、そのまま前進する。もちろん踏み跡は無い。
かやかりば分岐	12:05	〃	ここからは正規ルートとなり、先行者の姿が見える。踏み跡もしっかりついている。
頂上まで 500m	12:15	〃	下の集落は見えるが、それ以上の展望は無い。快適なスノートレッキングを楽しみながら登る。
頂 上 小 屋	12:45~2:00	風雪	昨年は 2 階の窓からの入室であったが、今年は雪を掘り下げた 1 階の入口から入る。関原の元長岡 HC 砂山夫婦・地元からのキガという女性と五十嵐夫婦・柏崎シニア登山愛好会リーダー山田勉氏と共に談義する。山田氏から石油ストーブで焼いた餅の雑煮を振舞って貰った。カッパ上着をつけて小屋を出ようとしたら、もう一人男性が入室して来た。上八石まで行ってみようかと外に出たが、ガスと雪で断念する。キガ・五十嵐・砂山と行動を共にスタートする。各自スノーシュー又はワカン装着であった。新雪と降る雪そして風で踏み跡は無くなっている。スノーシューを引っ掛けて 2 度雪の中に転んだ。
かやかりば分岐		小雪	ここまで降りると風も緩んで踏み跡も残っている。駐車地点までスノーシューのまま歩く。
路上駐車地点	2:50 着	〃	雪道を嫌って高速にのる。長岡市内で買い物をする。

そろそろ春山スタートと思いつけた。上山でコースを外れて歩いてしまったが、それはそれでスノーシューのいい練習となった。小屋では、皆山好き連中であって、雑煮をご馳走になるなど、楽しい時を過ごした。

下山時の分岐までは風雪で踏み跡も無くなったが、赤布が施してあり問題はない。ただし後ろをついて来たキガ女史から、「ここが八石山なの？」という声が出たほどに少々厳しい気象条件であった。